

## 新緑の楓

稲宮 健一

芽吹いて間もない淡い黄緑がかった新緑の楓が美しい。満開の染井吉野の季節は少し前に終わった。この桜は江戸時代に人の手で作られ、総ての木は同族のため開花時期を一斉に迎えるので、日本のどこでも同じ桜が楽しめる。しかし、楓には色々と種類があつて、一様に新緑や紅葉を醸し出すことはないようだ。

草木にそれほど詳しくないので、正確でないが楓をこのように思っている。今、家の傍の舞岡公園を歩いていると、数本の楓の若葉が如何にも春を迎えて、若い青葉の浅い緑の葉がきれいだ。枝ぶりは兼六公園の雪つりのように、丁度傘を広げたように上から少し傾斜して枝が下の方に延び、若葉でおおわれた木全体がいかにも新緑の季節にふさわしい色合いだ。そして、確かこの手の楓が秋に紅葉の主役になるように思う。この公園に数本しかないが、やはり、本格的に秋の紅葉を演じるのは京都の神社仏閣の楓だ。秋の京都の紅葉狩りは嵐山の渡月橋を渡ると天竜寺、嵯峨野の二尊院、南に下がって永観堂や東福寺など紅葉一色にお堂が包まれる。この楓こそ、今の季節に目に優しい若葉色の葉をしている楓の木ではないかと思う。家の近くを歩いていると家々に色々な楓が植えられている。今の時期なのに紅葉の時期のようなえんじの濃い葉の色をした木もある。同じ楓の葉の形をしているが、京都のあの楓とは別の種類なのだろう。京都の庭師は秋に見事な紅を醸し出す木を熟知して、紅葉の名所にはそれに合った楓を選んだのだろう。

一方わが家はここに住みだして四十年近くになる。住みだしたころ京都の楓のような季節を彩る木が欲しいと思つて近所の植木屋に楓を植えてくれと頼んだ。木が成長するにつけ、あの紅の紅葉を期待したが全く的的外れで、葉の形は楓だが、新緑の薄緑の青葉も、燃えるよう秋の色付きも現れ来ない。もつこの木は大木になつており、今更植え替える積もりはない。発注時に庭木の全集を調べて正確に種類を特定しおけばよかった。